

概要

◆氏名・所在地

高橋 拓磨 滋賀県愛荘町

◆就農年

令和6年3月

◆経営規模

施設野菜（イチゴ） 0.12ha

◆従業員数

家族労働1名

◆事業内容

少量土壌培地耕（滋賀県開発）によるイチゴ栽培に取り組む。



高橋拓磨氏

1

就農相談までの背景

前職ではリサイクル事業に携わってきたが、知人の紹介で県外のイチゴ園を見学したことをきっかけに、農業を生業にしたいと考えようになった。また、農業を始めるにあたり出身地である滋賀県でのイチゴ栽培に興味を持ち始めた。

非農家出身で農業経験もなかったため、地域の相談窓口である「しがの農業経営・就農支援センター（旧青年農業者等育成センター。以下「支援センター」という。）」に相談したところ、支援センター主催の就農準備講座があることを知った。

2

相談内容

就農準備講座に参加し、基礎知識を学ぶとともに、新規就農した先輩の体験談を聞くことで、本格的にUターン就農する決意が固まった。

しかし、**ゼロから新規就農をするためには、就農までの道筋を具体化させることが必要**だと考えたため、農地の確保や栽培技術の習得等について相談したい。

3

支援内容

●就農までの道筋の具体化

当初からイチゴ栽培での就農を希望されていたため、地域で新規就農されている家族経営している夫妻や、社会人を経て県立農業大学校で技術習得された農業者など、**様々な態様でイチゴ栽培を行う4経営体を就農専属スタッフが紹介**し、実際に視察訪問することで就農までの道筋を具体化させた。

●研修機関等の紹介や就農計画の作成

農地確保の見込みができたことから、県開発の少量土壌培地耕のイチゴ栽培が学べる**農業大学校就農科での技術習得**を勧めた。

1年間の研修中においても、**就農専属スタッフが町と連携し、就農計画の作成支援**を行った。

●就農地の決定

出身地ではないものの、視察訪問時に訪れた愛荘町の県指導農業者との縁で、農地を確保することができ、就農に向けた準備を開始することができた。



育苗準備



相談対応の様子

今後の意気込み

支援センターから紹介された農業大学校で安心して就農のための準備と農業を生業として生活していく仲間に出会えたことが大きいです。人脈や仲間づくりのためにも農大に通って本当によかったです！！

就農地でも近くにいる指導農業者や農業大学校OBなどの諸先輩に支えられています。

専属スタッフ所感

就農希望者の方は非農家出身者が大半で、その多くはゼロからのスタートになります。

相談者は、就農に向けて視察訪問をするなど、具体的な行動に移されたことで、農地を確保できたことから円滑に研修や就農につなげることができました。

地域の担い手となっていけるように、今後も引き続きフォローしていきます。



実践研修を始めたK氏（左）と
技術指導者としてサポートする農業委員（右）

概要

◆氏名・所在地

K氏 京都府南丹市

◆就農年

令和5年10月

◆経営規模

シュンギク 0.05ha、伏見トウガラシ 0.05ha、トマト 0.03ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

伏見トウガラシや葉物野菜の施設・露地栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

祖父母が大阪府の実家で農業をしており、農業への親しみを感じていたため、農業を専攻していた大学院を卒業後、会社で研究職に従事しつつ、土日には祖父母の農業を手伝っていた。

このような中、自分自身が経営して農業をやりたいという思いが強まり、圃場が確保・拡大するために農村での移住就農を考えるようになった。また、農作業は経験していたものの、自営就農するだけの栽培技術や経営ノウハウはなかったため、研修を受けて基礎から始めることが必要と考え、情報収集を始めた。

民間の就農イベントで「京都府農業経営・就農支援センター（京都農林水産業ジョブカフェ。以下「支援センター」という。）」を知った。

2

相談内容

実家から比較的近い「京都府内での就農」を目標として、栽培技術と農村での生活を学ぶため、京都府独自の研修制度である「担い手養成実践農場整備支援事業」（就農受入地域で2年間の実践的な研修を行った後、その農地で経営を開始することができる制度）を活用して、受入先の地域を探したい。

当面はその地域で一般的に栽培されている野菜の栽培技術を身につけ、一定の自信がつけば、以前から作っていたトマト栽培などにも挑戦していきたい。

3

支援内容

●就農地の選択支援

相談者は京都府内ならば就農する地域にこだわりはないため、より多くの地域のことを見聞かし、就農地を選ぶ検討材料にしたいという意向であったため、就農専属スタッフが、農業委員等の地域リーダーと調整し、4市町6地域を個別に現地案内した。



実践農場のハウス内で普及指導センターの職員から指導を受けるK氏

●就農地の決定

訪問した6地域のうち、南丹市園部町大戸地区で就農を決意した。南丹市は空きハウスが利用できることやハウス新設に対する支援が手厚いこと、実践農場の設置要件である農地及び技術指導者、農村地域での生活や習慣等をアドバイスする後見人の確保が確実であったことなどが決め手となった。

●関係機関との連携による総合支援

就農専属スタッフが、大戸地区を担当する南丹市農業委員や南丹農業改良普及センター、京都府南丹広域振興局、京都府農業会議現地推進役等の関係者と連携して、相談者の支援を行い、担い手養成実践農場の設置が決定した。

農業委員が後見人に就任し、K氏と担い手養成実践農場の設置に向けて、協議していくこととなった。

今後の意気込み

就農活動を始めたときに、就農専属スタッフが積極的に現地案内をセットしてくれたことが、大きな励みになりました。

いろいろと試してみたいことはありますが、まずは地域に馴染み、技術指導者や関係機関の方のアドバイスを謙虚に受け入れて、自立できるだけの技術と経営ノウハウを習得することを当面の目標に頑張ります。

地元と関係機関の方々には大変感謝しております。

専属スタッフ所感

実家の農業を見てこられたこともあり、農業の厳しさは十分に理解されていたと思います。「家族経営でできる規模の自営農業」というビジョンはキッチリと定めておられましたが、就農地を探すときも、作物を選ぶときも、夢と現実をしっかりと区別され、現実路線で準備を進めていかれたことが功を奏した秘訣です。

着実な経営を心がけて、地域の中心的な農業者に育っていただくと期待しています。



直営いちご農園

概要

◆氏名・所在地

株式会社近鉄百貨店 代表取締役 梶間 隆弘
大阪府大阪市（参入地：大阪府河南町）

◆参入年

令和5年10月

◆経営規模

いちご 0.41ha（うち大阪府河南町 いちご 0.41ha）

◆従業員数

役員13名 正社員1,511名（2024年2月末時点）（うち大阪府河南町 正社員1名）

◆事業内容

いちご栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

（株）近鉄百貨店では ESG（環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance））に配慮した理念として、『地域に寄り添い、地域と生きる』を掲げている。その理念を実現するための取組の一環として、近鉄沿線地域の河南町での農業参入を検討し、地元の普及指導センターを通じて「大阪府農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談することとなった。

2 相談内容

河南町で農業参入を考えているが、**農地確保に向けた手続きや栽培技術の専任スタッフを置くに当たり、いちごの管理技術研修を受けられる場所**について、相談したい。

3 支援内容

●いちごの栽培技術研修

相談者に適した研修先として大阪府が実施する「**南河内いちごアカデミー**」を紹介し、同社の栽培担当者が令和4年9月から令和5年3月までいちご栽培に特化した研修を受けた。

その後も、地域のいちご農園で実施研修を受け、更にいちごの栽培に関するノウハウを深く学んだ。

●農地確保の取組・就農地の決定

支援センターの就農相談窓口（企業参入部門）を受託し、農地中間管理機構の役割も担っている大阪府みどり公社が、参入情報の提供や農地貸借の手続き等の支援を行い、当初からの希望地であった河南町で農地の貸借（令和5年3月から10年契約）を受けた。

●経営開始後の定着支援

令和5年10月に営農を開始後は、就農専属スタッフが現地巡回を行い、就農定着を支援している。

ほ場管理及び栽培ベッド等の状況や苗の状態・定植、栽培管理のほか、収穫前にはサイズ分け及び規格外品の活用方法等について助言するなど、きめ細やかに相談に応じている。



いちごハウスの外観

今後の意気込み

特に農地の確保については支援センターに多くの農業参入にあたって、農地の確保と栽培技術の習得が課題となっていました。支援センターの窓口で相談することで就農の実現につなげることができました。

ご支援をいただき、希望地で農地を貸借することができ、大変感謝しています。

専属スタッフ所感

相談者は近畿圏を中心に10店舗の百貨店を運営しており、すでに販売面で大きな強みを有していました。

加えて、栽培技術についても研修や実地研修を受けるなど、積極的な習得に努められ、早期の経営安定が見込まれます。

今後も経営相談を通じてフォローしていきます。



高橋未来氏

概要

◆氏名・所在地

高橋 未来 兵庫県神戸市

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

就職先の農業法人にて肉用牛（繁殖肥育一貫経営）に取り組む。

1

就農相談までの背景

兵庫県内の農業高校を卒業後、北海道新得町の研修施設に入校した。北海道の牧場が地元である兵庫県の牧場で就職するか悩んだ末、**生まれ育った地域に貢献したいとの気持ちが強くなり、地元に戻ることを決意した。**

兵庫県で**肉用牛（但馬牛）牧場での雇用就農を希望**していたところ、「兵庫県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を知った。

2

相談内容

肉用牛（但馬牛）牧場での雇用就農を希望していたが、**業務内容だけでなく就業規則や社会保険、福利厚生等の環境面も重要視**していた。

また、**販売や加工等の事業にもチャレンジしたい**との思いがあった。専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、雇用就農先の探し方や研修制度等について相談したい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介

就農専属スタッフが**就農希望地や雇用条件等、相談者の希望を聞き取り、希望条件に適した農業法人の情報**を提供した。また、**短期間のインターンシップ研修へ誘導し、農業法人と相談者のマッチング**を行った。



支援センターの相談窓口



支援センターでの就農相談の様子

今後の意気込み

はじめに県下の肉用牛（但馬牛）牧場の情報をたくさん提供いただき、面談を繰り返しながら雇用就農先を検討しました。的確なアドバイスをいただき、インターンシップ研修から実際の雇用就農まで一貫した支援をいただけたことに、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

相談者は農業高校卒業後に北海道で研修をされ、就農におけるビジョンが明確化されており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。今後も引き続きフォローしていきます。



トマトを収穫する鐘ヶ江氏

概要

- ◆氏名・所在地
鐘ヶ江 まどか 奈良県広陵町
- ◆就農年
令和6年3月
- ◆経営規模
野菜（トマト等） 0.2ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
ハウスでイチゴとトマト栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

自分が育った奈良県で自営業をしたいと考える中で、農業という選択肢があった。**農業は作物を栽培するところから加工・販売まであり、日々の創意工夫を重ねることで商品の高評価に繋がってくる、とてもやりがいを感じる分野であると思い、就農したいと考えるようになった。**

しかし、何から始めれば良いか分からなかったが、ネットなどで情報収集したところ、普及指導センターが「奈良県農業経営・就農支援センター」の就農相談窓口であることを知った。

2 相談内容

「奈良県で農業を始めたい」という思いがあったので、自分なりに営農までの計画を作成するためにネット等を活用して情報を集め始めた。

しかし、農業の知識がほとんどなかったので、技術面と資金面の手立てや何から始めたら良いかなど、専門的な観点からの助言が必要だと実感した。そこで、より**具体的に営農までの経営計画や資金活用について相談しようと考えた。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

相談者は農業に関する知識がない中、自身で営農までの計画を考えていたが、農業未経験のため、**農地の借用や設備投資について、農業を始める上で必要な情報を提供**するなどの対応を普及指導センターが行った。

●研修機関等の紹介

相談者に適した、農業の基礎や施設野菜経営を行う上で必要となる技術を栽培実践を通じて学ぶ研修先等の情報を提供し、研修先を決定した。

●関係機関との連携による取組

研修先であるイチゴ、トマトの農業者の下で、農業経営者としての自立に向けた取組や考え方について1年間栽培実践研修を受けた。

●就農市町村の決定

栽培実践研修に修了のめどがつき、改めて普及指導センターへ就農先について相談したところ、**廃業予定の農業者がいる広陵町を紹介され、農地及び既存施設を借り受けて就農**することになった。



就農計画相談対応の様子



研修先で助言を受ける様子

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行って何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

まだ経営開始して間がない状態ですが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者は事前に就農に関する情報を収集され、就農における考えが明確化されており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



農業機械操作実習中のO氏

概要

◆氏名・所在地

O氏 大阪府

◆研修開始予定年

令和6年5月

◆研修内容

県農林大学校就農支援センター（以下「就農支援センター」という。）にて、農業技術や知識を学べる5カ月間の研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

IT系の会社を経営しているが、その仕事をいつ頃まで続けていかと考える時があった矢先に、**リモートワークと農業の両立**をしている方を紹介するニュースを見たことをきっかけに**農業への興味**が湧き、市民農園を借り、家庭菜園から**農業の勉強を始めた**。

家庭菜園をする中、**本格的に就農を意識**するようになり、農業技術や就農支援、農地貸借について相談できる場所を探していたところ、就農候補地として考えていた和歌山県の就農相談会を知った。

2

相談内容

就農地・移住先として、趣味の釣りで訪れたことがある和歌山県の沿岸市町を候補として考えていたため、和歌山県が主催する**就農相談会に参加**し、「わかやま農業経営・就農支援サポートセンター」に農業の技術及び知識が学べる研修機関や就農にあたっての**県等の支援施策、農地の探し方や確保の方法**、就農予定地やその周辺での**栽培品目**について、相談した。

3

支援内容

●各種支援制度等の説明

県の研修機関として、県内各地の**産地受入協議会や就農支援センターを紹介**し、各研修機関で行われているカリキュラムを説明した。

あわせて、就農するにあたっての**県等の支援策を紹介**し、また、就農をする段階では地域の情報が必要となるため、改めて市町村へ相談するよう助言した。

さらに、移住候補地における農業の特徴や栽培されている品目について、情報提供を行った。

●研修機関等の提案

相談内容から、農業の基礎から就農に必要な実践的な知識や技術までを学ぶことができる、就農支援センターの「**技術習得研修**」を勧めた。

研修は**5か月間で全25日**行われ、野菜・花き・果樹の栽培方法や、土壌肥料と施肥管理、病害虫の防除と農薬の安全使用、鳥獣害対策等を**講義と実習形式**で学べる内容である。

相談者の就農の意向や**研修と仕事の両立**を考慮した上で、早期に就農を考えている研修生との仲間づくりが出来ることから、**本研修を勧める**とともに、申込みの時期や方法等を説明した。



令和5年度就農相談会での相談ブースの様子



就農支援センターでの研修の様子（O氏と他研修生）

今後の意気込み

就農相談会に参加し、色々とアドバイスをいただきました！

就農はまだ先ですが、研修期間中には栽培品目のことや土壌のこと、地域のことなど、様々な勉強していきたいと思えます！

専属スタッフ所感

就農相談に来る方は「農業未経験」または「体験程度」が大半ですが、相談者は、ご自身で積極的に情報収集をしながら、市民農園での農業経験を積むなど、就農に向けてのイメージを明確に持たれていました。

研修が終了し、就農された際には、相談者が考える農業を実現できるよう、フォローしていきます。